



仕 様 書

玄々化学工業株式会社

◇ 品名／品番

もくぬへる 水性WPカラー／ S8-ライン

◇ 特 長

- ① (一社)日本建築学会 材料規格 JASS18 M-307 木材保護塗料適合品。
- ② 浸透タイプで木の呼吸を妨げません。
- ③ 木材の防虫・防腐・防カビ効果に優れます。
- ④ 塗りやすく、塗装ムラ・塗り継ぎムラが出にくい。
- ⑤ 要望に応じた仕上げに対応できる豊富なカラーバリエーション。
- ⑥ 水性塗料のため低臭気、不燃性かつ引火の危険性がありません。

<安全性>

- ・ホルムアルデヒド放散等級／F☆☆☆☆相当
- ・学校環境衛生基準 適合
- ・厚生労働省が濃度指針値を定める 14 物質不使用
- ・鉛・水銀・カドミウム・六価クロム等の有害金属類 不使用

◇カラーバリエーション (全 16 色)

色名	品番	色名	品番
カラレス	S8-10	チーク	S8-3700
ホワイト	S8-1000	パイン	S8-3900
ライトグレー	S8-1100	イエロー	S8-4000
ブラック	S8-1500	メイズ	S8-4900
アイアンレッド	S8-2000	グリーンアンバー	S8-5900
ブラウン	S8-2700	ブルー	S8-6000
レッドウッド	S8-2900	ウォールナット	S8-7500
オーク	S8-3500	コーヒープラウン	S8-8700

※カラレスは単品で屋外に塗らないで下さい。

◇ 用 途

屋外木製品全般

◇ 塗装方法

刷毛、ローラー(短毛)

◇ 標準塗布量／乾燥時間 (条件によって異なりますので目安として下さい。)

標準塗布量: 50～70g/㎡(1 回塗りあたり)

乾燥時間(20℃): 上塗り可能＝ 3 時間以上

硬化乾燥＝24 時間以上

◇ 塗料性状（一般性状値であり、規格値ではありません。ロットごとに異なる場合があります。）

項 目	方 法	結 果
外観(液色)	目 視	各色(カラレス:乳白色)
粘度(液温 25℃)	粘度カップ (IHS-NK2)	9±2 秒(色目により異なる)

◇ 塗膜物性（結果は実測値であり保証値ではありません。）

項 目	条 件		結 果
密 着 性 (基盤目試験)	木 地	スギ、ツガ、ゴム、パイン、ナラ、セン、カバ、マツ(ヤニのない部分)	異常なし
	上塗り塗料 (層間)	水性外部用クリアー・フラット「SC-30-**」	異常なし
耐 水 性	精製水 6 時間後、拭き取り		異常なし

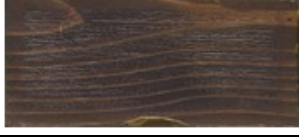
【 耐候性 】

試験方法: JIS K-5600-7-7 促進耐候性(キセノンランプ法)サイクル A に沿って一定期間ごとに塗膜外観を評価。

試験結果: < 淡 色 >

	水性WPカラー イエロー (2 回塗)	他社品 (2 回塗)
試験前		
1,000 時間		
2,000 時間		

< 濃 色 >

	水性WPカラー ウォールナット (2 回塗)	他社品 (2 回塗)
試験前		
1,000 時間		
2,000 時間		

◇ 標準塗装工程

適用範囲：屋外木製品全般(未塗装の場合)

①仕 様：水性 着色仕上げ

工 程		使用材料／配合比(重量比)	塗装方法	塗布量(1回)	乾燥時間(20℃)
1	素地調整	サンドペーパー P180～P240			
2	1 回目塗装	水性WPカラー「S8-ライン」 100	刷毛 ローラー(短毛)	50～70g/㎡	3 時間以上
3	毛羽取り研磨	サンドペーパー P320～P400			
4	2 回目塗装	水性WPカラー「S8-ライン」 100	刷毛 ローラー(短毛)	50～70g/㎡	24 時間以上

②仕 様：水性 着色クリアー仕上げ

工 程		使用材料／配合比(重量比)	塗装方法	塗布量(1回)	乾燥時間(20℃)
1	素地調整	サンドペーパー P180～P240			
2	着 色	水性WPカラー「S8-ライン」 100	刷毛 ローラー(短毛)	50～70g/㎡	3 時間以上
3	毛羽取り研磨	サンドペーパー P320～P400			
4	下塗り	水性外部用クリアー・フラット 「SC-30-**」 (必要に応じて水にて適宜希釈)	刷毛 スプレー	80～100g/㎡	6 時間以上
5	研 磨	サンドペーパー P320～P400			
6	中塗り	水性外部用クリアー・フラット 「SC-30-**」 (必要に応じて水にて適宜希釈)	刷毛 スプレー	80～100g/㎡	6 時間以上
7	研 磨	サンドペーパー P320～P400			
8	上塗り	水性外部用クリアー・フラット 「SC-30-**」 (必要に応じて水にて適宜希釈)	刷毛 スプレー	80～100g/㎡	24 時間以上

※塗装前に汚れや付着物、旧塗膜は除去して下さい。旧塗膜が残っている場合、密着が悪くなる事があります。

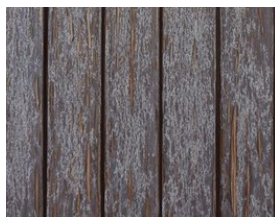
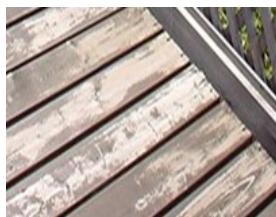
※条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので目安として下さい。

※塗装時は発泡に注意して下さい。刷毛塗りには水性塗料用の刷毛(ナイロン刷毛など)を使用して下さい。

◇ メンテナンス(仕上りの良し悪しは下地の調整で決まります。)

◎メンテナンス時期の目安

…木材の色褪せや塗膜の剥がれ、苔や藻の発生などが見られた場合。



POINT ① よく洗う

泥などの汚れをブラシやタワシなどを使って水洗いします。この時、細かな部分にこびり付いたり、隙間に入り込んだ泥などもかき出しましょう。その後、日の当たる場所でよく乾燥させます。

POINT ② 釘の打ち直し

板が反って釘が浮き上がっている場合は、新しい釘(ステンレス釘)で留めておきます。板が割れている時は、同じ厚みの板をその部分の大きさに合わせて、釘で留めて下さい。

POINT ③ 古い塗膜の処理

粗目のサンドペーパー(80 番ぐらい)などで擦って古い塗膜をはがして下さい。場合によっては水洗いして下さい。その後、よく乾かしてから塗装して下さい。

POINT ④ マスキング

塗りたくない部分はあらかじめマスキングしておきましょう。マスキングは養生シートや新聞紙を使うと便利です。

◇ 注意事項

- 色濃度の調整はカラレスで行なって下さい。水などで調整すると十分な塗膜性能が発揮できなくなる恐れがあります。また、カラレスの添加量が増えるにつれて耐候性が低下するので注意して下さい。
- 塗装時に使用した道具は中性洗剤などでよく洗浄して下さい。
- 初めて本製品をご使用される場合には、必ず目立たない場所で試し塗りを行って下さい。
- 他社製品との併用についても同様に試し塗りを行って下さい。併用での不具合については、一切の責任を負いかねますのでご了承下さい。
- 本来の用途以外には使用しないで下さい。
- 塗料の貯蔵は5℃以上、35℃以下で保存して下さい。
- 塗料使用後は必ず密栓をし、冷暗所(凍結しない場所)に保管して下さい。
- 本製品は水性塗料なので0℃以下の場所での保管を避け、凍結させないように注意して下さい。凍結すると解凍しても正常な状態に戻らず、塗膜性能が低下する可能性があります。
- 使用前には塗料を十分攪拌してから使用して下さい。
- 塗布量および乾燥時間は、素材の種類や気温・湿度などにより異なるので目安として下さい。
- 塗布量が多過ぎると乾燥が著しく遅くなり、ツヤムラ・乾燥不良の原因になりますので注意して下さい。また、塗布量が少な過ぎると塗料の性能を十分に発揮することができない場合があります。
- 塗装前に、素材の汚れ、ヤニ、ワックスなどを除去してから塗装して下さい。
- 旧塗膜を十分に取除いて下さい。他の塗料が既に塗装してある面には必ず試し塗りして下さい。
- 5℃以下での使用は避けて下さい。また、雨、雪の日や湿度が80%以上の日は塗装を避けて下さい。(乾燥時間が著しく遅くなります。)
- 木材の乾燥が不十分な場合、塗膜の性能を十分に発揮することができない為、木材の含水率を20%以下に調整してから塗装して下さい。
- 南洋材系堅木などの硬質材は高密度であり、塗料が浸透しにくい為、塗装の際は注意して下さい。
- 下地が十分に乾燥していない状態で塗装した場合、仕上がりに影響が出る可能性があります。また、塗装後も同様に水などの影響が考えられる場合は注意して下さい。
- どのような場合でも換気に十分注意して下さい。
- 使用中は手袋などをして皮膚に付かないようにして下さい。
- 使用後は手洗い(うがい)をして下さい。
- 子供の手の届かない所に保存し、誤飲、誤食しないように注意して下さい。
- 植物や動物に掛からないように注意して下さい。
- 製品の取り扱い中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、または送気マスク、保護手袋、前掛けなどを着用して下さい。
- 飲まないで下さい。もし、誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の処置を受けて下さい。
- 目に入らないように注意して下さい。目に入った場合には直ちに大量の水で洗い、医師の処置を受けて下さい。
- 皮膚に付いた場合には石鹸で水洗いをして下さい。
- 容器からこぼれた場合には砂などを散布した後処理して下さい。

- 火災の場合は、消火に炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用して下さい。
- 中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- 使用前には容器(ラベル)、カタログ、見本帳などの取り扱い注意事項を必ず読み厳守して下さい。
- 製品の取り扱いに当たっては、安全データシート(SDS)に従って下さい。
- 製品は性能の改善の為に予告無く仕様を変更することがあります。

◇ 廃棄方法

- 各自治体の廃棄物処理条例に準じて廃棄して下さい。
- 水路や下水道には流さないで下さい。